

日本建築学会歴史的建築総目録データベースについて — 成立の背景、これまでの運用、そして使い方 —



CPD 3 単位

2025年2月22日 (土) 13:30~16:30

申込締切 令和7年2月17日

会場 〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ 多目的ホール

参加費 無料

今回の講習では、日本国内に現存する歴史的建築の次世代への継承を目的に作られた、「歴史的建築総目録データベース」(GLoHB: General List of Historical Buildings)と、災害時の支援「災害調査支援システム」(DSSS: Disaster Survey Support System)の管理・運営を担っている、日本建築学会建築歴史・意匠委員会歴史的建築データベース小委員会主査で北海道大学大学院工学研究院 助教の池上先生に二つのシステムの成立背景やこれまでの運用、これからの活用の仕方を学びます。

昨今、多くの自治体で地域の文化的価値のある建物の調査、保存、活用が求められており、自治体によってはヘリテージマネージャーによる大規模な悉皆調査が予定されています。そうした調査で得られた物件データをデータベース化することで文化的価値のある建物の管理を容易にし、また、大規模災害時に文化的価値の高い建物の情報共有を素早く行うことで、他府県からのヘリテージマネージャー等の緊急調査応援の基礎資料としても活用することが可能です。講義では実際にデータベースを使っの説明もあるため、可能な方はネット接続可能なパソコンをお持ち下さるとその場で体験可能です。

背景として、日本建築士会連合会・日本建築家協会・日本建築学会・土木学会・国立文化財機構文化財防災センターとの間で「**平常時及び災害時における歴史的建造物の調査及び情報共有等に関する協力協定**」を締結し、歴史的建造物の保全・活用のためにGLoHBを定常的に利用できるようにしているとともに、国立文化財防災センターを主体とした「**災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援等に関する協力協定**」を締結し、大規模災害の際には歴史的建造物の各種調査を行える体制を整えているということがあります。現在、中四国地方においても災害時の歴史的建造物の調査・支援協定が準備されているところです。

近年における前者の主要事業は、文化庁委託による「近現代建造物緊急重点調査」があり、これまでに行われた調査結果は全てGLoHBに入力されています。後者は、2024年正月に発災した「令和6年能登半島地震」の被災歴史的建造物調査である「文化財ドクター派遣」があり、DSSSが調査ツールと有効に活用されています。

講習会では、GLoHBの利用方法の説明ならびに、能登半島地震におけるDSSSの利用実態について解説を行います。これからヘリテージマネージャーなど、歴史的建築の保存・活用を担う中で必ずデータベースを活用する機会がでて来るとお思いますのでぜひこの機会に受講してください。

— 参加申込 —

※参加申込みは下記QRコードから若しくは
下記アドレスから事前申込み



<参加申込みアドレス>

<https://ws.formzu.net/fgen/S496224707/>

— 問合せ —

【公益社団法人 広島県建築士会 内
(広島県ヘリテージ協議会事務局)】

Tel:082-244-6830

Fax:082-244-3840

E-mail:info@k-hiroshima.or.jp

講師

池上 重康

いけがみ しげやす



1966年札幌生まれ。1991年北海道大学大学院工学研究科建築工学専攻修士課程修了。業績 2006年度日本建築学会奨励賞 2010年度日本都市計画学会石川奨励賞(社宅研究会代表)
現在は、北海道大学大学院工学研究院・助教 博士(工学)
日本建築学会建築歴史・意匠委員会 歴史的建築データベース小委員会主査
<著書>

(2011年/北海道大学出版会)『明治初期日本政府蒐集船載建築書の研究』

(2010年/共著、講談社)『日本建築大全(東日本編)』

(2009年/共著、学芸出版社)『社宅街 企業が育んだ住宅地』

(2000年/共著、鹿島出版会)『近代日本の郊外住宅地』

主催

広島県ヘリテージ協議会



共催
association of architects & building engineers
公益社団法人



広島県建築士会
ヘリテージ委員会

後援

一般社団法人
日本建築学会

中国支部